

**第14回海ごみサミット2016三重会議  
海外招聘者プロフィール等**

- ① **アメリカ／5 Gyres (ファイブ・ジャイア) 研究所／マーカス・エリクセン**  
世界中の海を調査し、プラスチックによる海洋汚染の調査・啓蒙活動を行っている。エリクセン氏はこのNGOの代表で、研究者でもある。
  
- ② **韓国／OCEAN (オーシャン) /ホン・ソヌク**  
市民によるモニタリングやICC (国際海岸クリーンアップ) の実施、教育／啓発プログラムの開発、国際協力活動など、東アジアでも先駆的な活動を行っているNGO。ホン氏は、海洋学と生態工学研究者で、オーシャン代表。
  
- ③ **台湾／荒野保護協会 (こうやほごきょうかい) /フウ・ジェイソン**  
自然を通じた教育、環境問題や自然の保全、地域社会の活性化やボランティア活動に取り組んでいる。
  
- ④ **アメリカ／ハワイ・ワイルドライフ・ファンド (ハワイ野生生物基金) /ミーガン・ラムソン**  
地域社会での、自然環境の研究、教育、保護活動に積極的に取り組むNGOで、ウミガメやハワイアンモンクシールの保護にも携わる。東日本大震災を起因とする日本からの漂着物が到達しているハワイ島最南端のカミロ海岸でのクリーンアップを継続的に主導している。
  
- ⑤ **カナダ／バンクーバー水族館／ケイト・ル・スーフ**  
バンクーバー水族館はNGOが運営する水族館で、海洋に関する研究、保全、生物保護、環境教育にも積極的に取り組んでいる。ルスーフ氏は水族館の震災起因洋上漂流物問題と、カナダ全域での活動である【グレートカナディアンショアラインクリーンアップ】の担当である。
  
- ⑥ **中国／福建省環保志願者協會／黄 厚新 (Huang Hou Xin/ファン・フーシン)**  
福建省の環境保護ボランティア団体。
  
- ⑦ **カナダ／漂着物アーティスト／ピーター・クラークソン**  
カナダ西海岸に住む国立公園局職員で芸術家。海岸漂着物を造形芸術作品に生まれ変わらせる活動をしている。

- ⑧ フランス／サーフライダーファウンデーションEU／Antidia Citores（アンティディア・シトレス）  
サーファーやボディボーダーの視点から海辺の環境保護活動を行なっている NGO。発祥は米国、EUには43の支部があり、会員は約1万人。
- ⑨ アメリカ／コクア・ハワイ・ファウンデーション／Doorae Shin（ドーラエ・シン）  
ハワイ学校システムでの環境教育をサポートする NPO で、海洋ごみについての教育活動も行っている。
- ⑩ 台湾／台湾環境情報協会／林 育朱（Yu-Chu Lin／リン・ユシュウ）  
人類と自然が調和する社会の構築という使命の下で活動する NGO。環境保護に長年従事してきた多くの活動家の集まりである。
- ⑪ アメリカ／アラスカ湾の番人／クリス・パリスター  
米国アラスカ州の環境 NGO で、アラスカ湾を生息域とする生物とその生息地を守るため、アラスカ台船プロジェクトを主としたアラスカ湾沿岸の海洋ごみ問題に取り組んでいる。
- ⑫ 韓国／OSEAN／イ・ジョンミョン  
②に同じ。OSEAN 事務局長。
- ⑬ 中国／上海仁渡海洋公益発展中心／劉 永龍（リュウ ヨンロン）  
主に中国の上海をベースとして海洋環境保護に焦点を当てて活動する NGO。ICC の中国本土におけるチーフコーディネーターとして活動を続けている。
- ⑭ 国際ネットワーク／ワールド・オーシャン・コレクティブ／ジョン・シュミット  
2014年に日本で JEAN が開催した海洋ごみのシンポジウムの参加をきっかけに立ち上げられたビーチクリーンアップ団体の国際的な連携組織。シュミット氏は、ビーチクリーンアップや教育、予防を通して、ごみのないワシントン州の海岸を維持するために活動している NGO ワシントン・コースト・セイバーズに所属。
- ⑮ 韓国／キム・ジファン（作品を展示予定）  
韓国済州島を中心に活動している漂着物アーティスト。

\* 29日ビデオ上映のピーター・クラークソン氏と、30日のピーター・クラークソン氏は同一人物です。